

山口単・複2冠

江陵2年

勝毎杯高校 バドミントン

女子複は橋本・奥秋組 (2帯南商年)

【芽室】バドミントンの第51回十勝毎日新聞社杯争奪全十勝高校秋季大会（高体連十勝支部、十勝バドミントン協会主催）が22、23の両日、芽室町総合体育館などで行われた。男子1部シングルス決勝は山口吏玖（江陵2年）が関根陸（帯大谷1年）を2-0で下した。山口は島尻慎悟（江陵2年）と組む同ダブルスも制し2冠を遂げた。女子1部ダブルス同は橋本風香・奥秋絵梨組（帯南商2年）が濱下紗希・中井優純組（帯大谷同）を2-1の逆転で下し優勝。同シングルスは中シードの石原聡弓（帯大谷1年）が第1シードの濱下を2-1で破り初優勝した。（古田千晶通信員）



【男子1部シングルス決勝】山口吏玖（江陵2年）が速いタッチで攻め込む。山口はダブルスとの2冠を達成した

「奇跡」の逆転V 橋本・奥秋組



女子1部ダブルス優勝の（左から）奥秋絵梨・橋本風香組（帯南商2年）

う第1ゲームを、濱下紗希・中井優純組に18-21で取られた。その後も一時4点差をつけられたが、そこからひるまず21-19、21-19と接戦をものにして2ゲームを連取し逆転勝ち。「守りに入ってしまった中で、お互いに声を掛け合い、頑張らなくちゃと思えた」（奥秋）と攻めの気持ちに切り替えられた。

女子1部ダブルスは橋本風香・奥秋絵梨組が全十勝夏季大会に続き制した。決勝は「勝てたのは奇跡」と

橋本は接戦の末の逆転劇を振り返った。

「ふわふわし、気持ちがつくれていなかった」とい

「サーブや2球目のサーブ周りでミスが多かった」（橋本）と課題も見えた。「全道4強」を目標に、2人はさらなる高みを目指す。

「攻める」一心で快勝 山口・島尻組

男子1部はダブルスで島尻慎悟・山口吏玖組が快勝した。決勝の第1ゲームで15失点したことに反省を残したが、初戦から失点を抑えて5試合をストレート勝ちした。

山口はシングルスも6試合を快勝して制した。決勝の第2ゲームは「攻めることだけを考えた」と流れを得て21-7で圧倒、「相手の嫌がる場所に打ち込めた」と集中したプレーを演じた。

北北海道代表ダブルスで挑んだ島尻・山口組は全日本ジュニア選手権（9月14、17日・長野）の1回戦で福岡代表に19-21、20-22で敗れた。リードする場面もあったが「自分たちからミスせず、ラリーを続ける経験の差」（田代浩司監督）があった。上位陣のスピード、攻撃的なドライブショットなどのゲーム展開は刺激となり、成長への糧となった。

「優勝する」と決めてきた

女子単の石原

○女子1部シングルスは1年生の石原聡弓が制した。7月の全十勝夏季は7位に終わり「悔しかった。次は優勝すると決めてきた」。勝って表情も晴れやかだ。

決勝は最終ゲームの中盤まで競り合った。「リード



男子1部入賞者。（前列左から）越川、関根、山口、島尻、（後列左から）加納、塩島、桐山、佐々木、林

